完成現場報告

静岡県焼津市・F邸

焼津・板倉の家

木の持つ力強さと美しさが
現しになっている「板倉構造」。
構造材がそのまま、
暮らしのカタチを造る…。

吹き抜けが心地よい、木の大空間。温かく、落ち着いた室内です。

「自然素材の木の家に住みたい！」

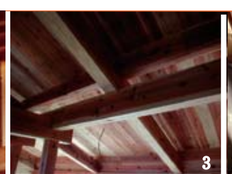
Fさんが家づくりを考え始めたのは10年前の事。木について・構法について、沢山の家を見たり、勉強会に出かけたと聞きました。そんなFさんとお会いしたのは、私達の行っている板倉の家の見学会でした。天然乾燥の木材を使い、室内は、板倉の壁と漆喰仕上げ。余分な仕上げも建材も使わないこの構法に、とても興味を持っていただき、まずは、板倉の事・木のことをもう一度勉強をする所から家づくりがスタートしました。Fさんとの打ち合わせと同じ時期に、板倉構法に大きな変化がありました。

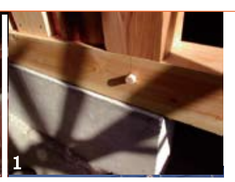
せっかくの板倉構法なのに…。

「板倉構法」は伝統的な構法として蔵の構造などに使われるほど、とても粘り強く耐久性のある構法として主に東北地方で受け継がれてきました。柱と柱の間に落とし込まれた厚み30㎜の杉板の一枚一枚が、地震などの外力を柔軟に粘り強く受け止めて大切なものを守ってきました。しかしその柔軟に守る構造は、外力が加わったとき頑固に守ることを前提とする現代の建築基準法には合わず、その耐力を低い値として扱われていました。建築基準法に合わせ確認申請に許可されるためには、柔軟さにプラスして固い守りも必要…。そこでこれまでは、その外面などに筋違いや面材を貼ることで、基準法に適合させてきたのです。

新構法、開発！

「板倉構法を建築基準法で正式に認めてもらいたい！」。その思いから、平成16年から平成17年にかけて、この板倉構法の提案者、筑波大学の安藤邦廣教授を委員長として研究会が発足し、板倉壁に縦板を組み合わせた、新しい板倉構法の壁がついに開発されたのです。これにより大臣認定を取得することができ、実際に現場で使えるようになりました。





1 ／込栓を使って、木で木をしめる。
2 ／板倉構法　建前の様子。
3 ／長い材を組み合わせて、耐久性を高めます。
4 ／落とし板の上に貼られた縦板。
5 ／大工さんが作ってくれたキッチン。すっきりしていて使いやすそう…。

Kansei genba—Report

Yaizu 「Itakura-house」

木って、結構暖かい。

板倉の家は、本当に「木」がいっぱいです。構造材の柱・梁から始まり、板倉壁の落し板（これがすごい量ですが）、それを止める縦板、屋根の下地材や壁の下地材、床板や敷居・鴨居などの造作材等…次から次へと現場に運ばれ、材料置場はいつも木材でいっぱいでした。

よく驚かれることですが、今回の家には壁と床下に断熱材を入れていません。「杉の板は、なんだか暖かい」と感じたことはありませんか？杉材には適当な断熱効果が有り、表面温度もそれ程低くは無いので、そこからの輻射熱効果も有り、室温より暖かく感じられます。加えて板倉構法の壁は30㎜の落し板に24㎜の縦板を貼る為、合計54㎜もの木の厚みになります。また床板には40㎜の杉板を貼り、基礎断熱仕様にした為、床下からの冷気も減少出来るのです。そして…薪ストーブも計画済み！床や壁の木の暖かさに加え、木を燃料にした薪ストーブで、冬を乗り切ります。何だか、寒くてつらい冬が、楽しい冬になりそうです。ご主人も建築中から薪になる木を集め、今から待ち遠しい様子でした。

大工の腕の見せ所…。

板倉構法に合わせて、大工の技術もふんだんに使っています。込栓と呼ばれる木の栓を使い木材同士を止めたり、長い木材を上下に組んでいます。全て見える仕事なので、大工の仕事も手を抜けません！「はじめから終わりまで、気が抜けなかった…」と、大工の棟梁が話していました。住み手も真剣ですが、造り手も真剣です。お互いの気持ちがぶつかり、納得のいく建物が出来ていくのだと思います。大工もまた、この様な仕事を通して技を磨き、技術を繋いでいくのでしょうね！

「こだわりの我が家です！」

その他、Fさんの家は素材にもこだわりがたくさんあります。浴室の壁に貼った青森ヒバには独特の香りがあり、清潔感が感じられ、耐水性、耐腐朽性があります。1階の和室には、昔ながらのわら床に、色土を使わないすっぴん畳と呼ばれるイグサを使いました。それぞれ生産者と直結した流通で、顔の見える関係です。カーテンは奥さんのこだわりで、オーガニックコットンの素材に。トイレと洗面室の床にはコルクを貼りました。

物語りはこれからです。

構法から木材、素材と、たくさんのこだわりで造られた家になりましたが、これからこの家ではどのような生活が送られ、またどのように変わっていくのでしょうか？きっと、今よりももっと味わいの増した家になっていくのでしょうね。私もじっくりお付き合いさせていただきたいと思います。

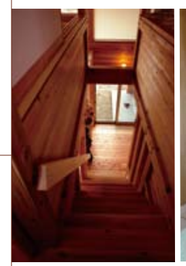
設計者　山﨑　健治

HOUSE DATA

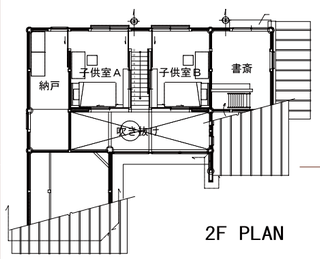
- 家族構成　夫婦、子供2人、両親
- 敷地面積　323.52㎡
- 建築面積　78.53㎡（36.78坪）
- 延べ面積　121.59㎡（36.78坪）
- 構造　木造軸組み（板倉構法：落し込み板壁構造）
  （柱：天竜杉　梁：天竜杉　土台：天竜桧）
- 竣工　2006年3月
- 外部仕上げ
  屋根　ｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板　縦桟葺き
  外壁　杉赤身板縦張り、ﾋﾙｸﾞﾙ下地吹付け仕上げ
  内部建具　木製ｵﾘｼﾞﾅﾙ建具
  外部建具　ｱﾙﾐ建具（YKK）
- 内部仕上げ
  天井　杉厚板現し
  内壁　落し板現し厚30mm・一部漆喰塗り
  1F床　杉板 厚40mm（蜜蝋ﾜｯｸｽ塗り）
  2F床　杉板 厚40mm（蜜蝋ﾜｯｸｽ塗り）
- 設備
  ｷｯﾁﾝ/ｵﾘｼﾞﾅﾙｷｯﾁﾝ
  洗面化粧台/ｵﾘｼﾞﾅﾙ洗面台
  浴室/ﾊｰﾌｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾞｽ　青森ヒバFJ縦貼
  照明器具/松下・ﾏｯｸｽﾚｲ・ﾔﾏｷﾞﾜ
- 総費用
  建物：2,400万円（設計料・解体工事抜き）

右 ／洗面所の入り口にガラリ戸を使い、通気を確保しました。
左 ／木には天然素材の証明が馴染みますね。

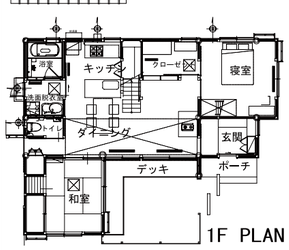
上 ／子供室は開放的に作りました。障子窓を開ければ、リビングの吹き抜けと一体となります。



右 ／浴室の壁には青森ヒバ材が貼られています。
左 ／階段の手すりなど、触れるものすべてが天然素材です。



2F PLAN



1F PLAN

南側の外観。中庭の板塀はご主人の製作です。